

認知症に関する活動計画（概要）

新潟県作業療法士会では、地域包括ケアシステム推進委員会が主となり活動している。活動内容は、作業療法士向けの研修会企画・運営、認知症の人と家族会の「つどい」支援、会員向けの認知症リハビリテーションの普及・啓発活動を主軸としている。これまでも県内では、認知症サポーター養成講座、認知症初期集中支援、認知症カフェ、RUN伴などに作業療法士が関わってきた。県内における地域支援事業に関する情報収集は、7ブロック46支部へ市町村担当者を配置して行っているが、認知症関連活動に関して報告のある市町村は固定されている状況がある。また、各施設・事業所、個人への依頼が多く、正確な実施数の把握はできていない現状がある。2024年度は、ブロック内事業と連動して、ブロック長・支部長合同会議にて、認知症関連のOT協会の動向と県士会の取り組みについて情報提供を行い、情報収集の協力を依頼した。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

2023年度は、世界アルツハイマー・デーに合わせて、会員向けに認知症の理解促進・認知症への作業療法士の関わり等の普及・啓発を目的とした「オレンジ通信」を発行し、各施設への配布と県士会ホームページへの掲載を行った。2024年度も作成を継続し、つどい支援等の地域での作業療法士の活動を会員に向けて紹介する予定である。また、ホームページへの掲載と合わせて、市町村担当者を通じて会員への周知を行っていく。



認知症の人と家族の会との連携事業

2022年度に家族会へ研修会講師を依頼したことがきっかけとなり、つどい支援の要望をいただき、2023年度より新規事業として、つどいへの派遣事業を開始した。委員を中心に2地区（新潟、上越）に3名ずつ1回の派遣を行った。つどいでは、家族から夜間頻尿による睡眠不足の悩みが共有され、具体的な排尿支援として水分量チェックなどの助言が行われた。また、外出先でのトイレ介助ができる施設が分からず、外出に苦慮しているとの声があり、気軽に外出できるようにトイレマップの作成が必要だとの意見が出た。さらに、普段の生活における困りごとに対して、対象者の強みを活かした助言や情緒的な支援が求められていると感じられた。現在は委員を中心に派遣を行なっているが、派遣地区や人員を増やすため、委員以外の会員の見学募集を検討している。

士会会員向けの研修会事業

2023年度は、「認知症支援でOTに求められていることは何か？」というテーマで対面とWEBのハイブリットでの研修会を実施した。家族会副代表の方や群馬医療福祉大学の山口智晴氏を講師へお招きし、地域に暮らす認知症の人と家族の思い、認知症の人の支援について講演をいただいた。山口氏には、認知症の定義、生活行為に着目したリハ、地域の仕組み作り等の幅広い内容を伺う事ができた。アンケートでは、「生活行為のアセスメントにおいて、強みと弱みの分析が重要であると理解できた」と意見があった。

2024年度は、2つの研修会を企画している。1つ目は、認知症の人の生活行為を支援できる作業療法士の育成を目的に、昨年度に引き続き山口氏を講師にお招きし、「認知症リハビリテーションにおける実践プロトコル」に関する対面研修を予定している。2つ目は、家族会や県担当者にも参加していただく予定である。

